

親の育ちを応援する学習プログラム

学習の進め方編



I-1

子どもは「生き生き」してる？

対象：4～5歳児を持つ子育て中の保護者
時間：90分程度

| ねらい | 4～5歳児の特徴を把握する。 4～5歳児の「生き生き」した活動を促すためのポイントを学ぶ。 | | |
|-------------------|--|---|------------|
| 実施のポイント (評価など) | ○子どもの「生き生き」した姿をできるだけ多くイメージし、子どもの気持ちへの共感が大切であることに気付くことができる。 | | |
| 事前準備 | ○名札 ○筆記用具 ○付箋紙 ○模造紙 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | ワークの趣旨説明 ○名札づくり ○自己紹介 | ・3～4人のグループをつくる。 ・自己紹介では、氏名と今日呼んでほしい名前、今日参加した理由などをお互いに話すことでリラックスできるようにする。 | 名札 |
| 展 開 25分 | ワーク1 ・各自で「生き生き」していた場合について付箋紙に記入し、ワークシートに貼る。 | ◎子どもの「生き生き」していた場面を思い出し、4～5歳児の特徴を共有することをねらいとする。 ・ブレインストーミングでできるだけ多く出すようにする。 ・書いたものを発表し合う中で、どんなときに4～5歳児が「生き生き」しているかを整理していく。 | 付箋紙 模造紙 |
| 20分 | ワーク2 ・子どもがなぜ「生き生き」できたのかグループで話し合う。 ・グループ内で出た意見を発表し合う。 | ◎子どもの立場になって考えることをねらいとする。 ・グループの中で発言しやすい状況をつくる。 | |
| 30分 | ワーク3 ・資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・実行しやすいアイデアを話し合い、ワークシートに記録する。 ・グループ内で出た意見を発表し合う。 | ◎「生き生き」した活動を促すポイントに気付き、実際にできることを出し合うことをねらいとする。 ・無理をせず、できることから行うことを勧める。 | |
| まとめ 5分 | ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。 | ・何人かに発表してもらい、全体で共有する。 | |

I-2

子育てのイライラとうまく付き合う親になろう

対象：乳幼児を子育て中の保護者
時間：80分程度

| ねらい | 子育てのイライラしてしまう感情とうまく付き合っていく基本を学ぶ。 | | |
|-------------------|--|--|------------------------|
| 実施のポイント (評価など) | ○子育てのイライラ感情を共感することができる。 ○子育てのイライラ感情とうまく付き合う方法を共有することができる。 | | |
| 事前準備 | ○名札 ○筆記用具 ○資料 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 15分 | ワークの趣旨説明 ○名札づくり ○アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 | ・3～4人のグループをつくる。 ・自己紹介では、氏名と今日呼んでほしい名前、今日参加した理由などを話してもらい、参加者の緊張や場の雰囲気や和らぐようにする。 | 名札 |
| 展 開 10分 | ワーク1 ・エピソードを読む。 ・子どもたちとお父さんの行動を想像してグループで話し合う。 | ◎どこにでも誰にでもありそうな状況であることに気付くことをねらいとする。 | |
| 10分 | ワーク2 ・イライラ感情に気付いたとしたらどんな対応ができるかグループで話し合う。 | ◎自分のイライラしている感情を認めると、平静に対応できることに気付くことをねらいとする。 | |
| 15分 | ワーク3 ・資料1を読む。 ・グループでイライラした経験を出し合い、発表する。 | ◎イライラは誰もがもっている感情であることを全体で共感することをねらいとする。 | 資料1(P.60) |
| 20分 | ワーク4 ・グループでイライラ感情をコントロールする方法を話し合い、発表する。 | ◎いろいろなコントロールの方法を全体で共有することをねらいとする。 | |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・資料2、3を読む。 ・今日の感想を記入する。 | ・資料2を読み、子育てではイライラすることも多いが、無理をせずうまく付き合いながら楽しむように伝え、まとめる。 ・時間があれば、資料3を見ながら実際にやってみる。 | 資料2(P.61) 資料3(P.62) |

I-3

子ども同士のトラブル・・・どう解決する？

対象：幼児期～学童期の子どもをもつ保護者
時間：80分程度

| ねらい | 子どもの間でトラブルが生じる理由を理解する。 子どものトラブルへのかかわり方の基本を学ぶ。 | | |
|-------------------|--|---|-----|
| 実施のポイント (評価など) | ○子どもに共感しながら関わることの大切さを理解することができる。 | | |
| 事前準備 | ○名札 ○筆記用具 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | ワークの趣旨説明 ○名札づくり ○自己紹介 | ・ 3～4人のグループをつくる。 ・ 自己紹介では、氏名と呼んでほしい名前、今日参加した理由などを互いに話すことでリラックスできるようにする。 | 名札 |
| 展 開 10分 | ワーク1 ・ 子ども同士のトラブルを思い出す。 ・ グループで話し合う。 | ◎最近の自分の子どものトラブルを思い出し、幼児期～学童期の子どもの特徴を共有することをねらいとする。 ・ 話しやすい雰囲気にする。 | |
| 25分 | ワーク2 ・ エピソードを読む。 ・ グループで話し合う。 | ◎子どもに共感しながら関わることの大切さに気付くことをねらいとする。 ・ 子どもたちと慎太郎くんのお母さんの気持はどうだったのか、お母さんたちはどう関わればよかったのかについてグループで話し合う。 | |
| 30分 | ワーク3 ・ 資料を読んで関わり方のヒントを得る。 ・ グループで話し合う。 ・ グループ内で出た意見を発表し合う。 ・ みんなで育てるために何が出来るか話し合う。 | ◎気付きとこれから自分にできることを共有することをねらいとする。 ・ グループで気付いたことや自分にできることを話し合うことで、互いに知恵を得られるようにする。 ・ まず「子どもにとってどうか」から考えることを大切にすることを押える。 | |
| まとめ 5分 | ふりかえり ・ 感想を記入する。 ・ 発表し合い、共有する。 | ・ 何人かに発表してもらい、全体で共有する。 | |

Ⅱ-1

早ね早おき朝ごはんで、元気もりもり大作戦！

対象：小学校低学年の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

| ねらい | 子どもの基本的な生活習慣や親自身の行動を振り返り、子どもの健やかな成長には生活リズムを整えることが重要であることに気付く。そして、今後、どのような点を続けて、どのような点を改善していくとより良いのかを、参加者相互の話し合いから考える。 | | |
|-------------------|--|--|----------------------------------|
| 実施のポイント (評価など) | ○親子の生活習慣の現状を振り返り、問題点に気付くことができる。 ○より健康的な生活習慣を維持・改善するためには、どのようなことが重要なのかを知り、実践に向けて意欲をもつことができる。 | | |
| 事前準備 | ○名札 ○筆記用具 ○資料 ○あらかじめ4～5人のグループに分かれておく | | |
| 時間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導入 12分 | ワークの趣旨説明 ○生活習慣チェック!をする。 ○アイスブレイク | <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて考えを出しやすい雰囲気をつくる。 ・自己紹介により互いに親近感がもてるようにする。 ・アイスブレイクの中でグループ編成してもよい。 | 名札 資料1(P.63) (生活習慣チェックシート) |
| 展開 15分 | ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード(1)を読む。 ・子どもの朝の様子を振り返る。 ・グループで話し合う。 ・原因を考える。 ・グループで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子ども自身の生活習慣や心身の状態を振り返り、原因を探ることで、どのような点に注意して生活習慣を見直すと良いか気付くことをねらいとする。 ・グループで話し合った後、何人かの方に感想を求め、全体で共有する。 | |
| 8分 | ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード(2)を読む。 ・アドバイスを考え、吹き出しに記入し、意見交換する。 ・親としての関わりについてグループで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎親の都合で子どもの生活習慣を乱していないか振り返り、親自身の行動や生活の仕方について考えることをねらいとする。 ・グループで話し合った後、何人かの方に感想を求め、全体で共有する。 | |
| 15分 | ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を進行役が読み簡単な解説をする。 ・生活習慣を確立する重要ポイントを知る。 ・各自で行動目標を3つ選ぶ。 ・グループで意見交換する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な生活習慣を確立するための重要ポイントを知り、それぞれの家庭の状況に合わせて、行動目標を明らかにすることをねらいとする。 ・行動目標は、無理に3つ選ぶ必要はないことを知らせ、1つでもよいことを伝える。 ・意見交換から、いろいろな視点があることを相互に理解し、必要なポイントを加える。 ・グループで話し合った後、何人かの方に感想を求め、全体で共有する。 | 資料2(P.64) (早ね早おき朝ごはんリーフレット) |
| まとめ 10分 | ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・各自の思いを記入する。 ・感想を聞き、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・何人かの方に感想を述べてもらい、全体で共有する。 ・行動目標を「実行する」ことで、子どもの意欲や情緒の安定につながることを伝える。 | |

| ねらい | 子どもの食生活に関わる悩みや心配を保護者同士で共有し、家族の食生活をより良くするための工夫を考える。 | | |
|-------------------|---|---|---|
| 実施のポイント (評価など) | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者間で子どもの食生活に関わる悩みや心配を共感することができる。 ○保護者自身が子どもの頃、苦手だった食べ物やそれにまつわるつらいエピソードを思い出すことで、子どもの気持ちを考えたり、子どもへの接し方を見直したりすることができる。 ○子どもが何でもおいしく食べるために、家庭でしている工夫やできそうな工夫を紹介し合い、実践に向けての意見を高めることができる。 | | |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> ○名札カード ○ワークシート（ワーク1、2、3を別々に人数分用意する） ○付箋紙 ○模造紙 ○資料 ○筆記用具 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや約束事項を確認する。 ・仲良し同士が一緒にならないようにアイスブレイクを行い、4人グループをつくる。 ・自己紹介の際に子どもの頃好きだった食べ物を紹介し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 筆記用具 名札 |
| 展 開 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク1 ・エピソードを読む。 ・子どもの食事について気になることを付箋紙に記入する。 ・グループ内で話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎エピソードを読み、各家庭で子どもの食生活に関する悩みや不安を話し合い、共有することをねらいとする。 ・付箋紙に各自が記入し、紹介しながら模造紙に貼り、簡単に分類しながら話し合う。 ・グループの意見を全体に発表し、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> エピソード ワーク1のシート 付箋紙 模造紙 |
| 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク2 ・子どもの頃の苦手な食べ物について思い出す。 ・グループ内で話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎保護者が子どもの頃に苦手だった食べ物を思い出すことで、好き嫌いの克服は難しく、保護者が心にゆとりをもって対応する必要があることに気付くことをねらいとする。 ・子どもの頃の苦手な食べ物についての思い出をワークシートに記入し、わが子の気持ちを考える。 ・子どもの食事が苦痛にならないように、工夫する必要があることに気付かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク2のシート |
| 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク3 ・家庭で実践している工夫を付箋紙に記入する。 ・グループ内で話し合い、主なものを全体に発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが苦手なものを克服し、何でもおいしく食べるようになるために、家庭で実践している工夫を共有することで、今後の自身の取組に向けた一助となることをねらいとする。 ・付箋紙に各自が記入したあと、紹介しながら模造紙に貼り、簡単に分類し、全体に発表する。 ・調理法以外の工夫にも目が向くようにする。 ・意見が出にくい場合は、自分の実践以外（保護者や友人などの実践）でも良いこととする。 ・調理法や味付けのほかに、美しい雰囲気づくりや食材への興味関心を高めることも効果的な工夫であることを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク3のシート 付箋紙 |
| ま と め 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ふりかえり ・資料の説明を聞く。 ・感想を記入する。 ・グループ内で感想を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎学習についての感想を記入し、グループ内で発表し、実践への意欲を高める。 ・資料の説明を聞き、より良い食生活を考えるヒントとする。（資料は全て紹介する必要はない） ・食について関心をもち、家族で楽しく食卓を囲むことの大切さに触れて、これからの食生活を見直す意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料(P.65~P.68) ふりかえりのシート |

| ねらい | 子どもの規範意識を育てるために、親として日常の関わりの中で大切にしたいポイントについて考える。 | | |
|----------------------|---|---|------------|
| 実施のポイント (評価など) | <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの規範意識を育てるために今まで行ってきた自分の関わり方を振り返ることができる。 ○子どもと約束やルールをつくるときに心がけるべきポイントや、それを尊重し順守させていくためのポイントについて考えることができる。 | | |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> ○会場設営（1グループ6名以内の机とイス） ○名簿によるグループ分け（短縮版のみ） ○資料 ○筆記用具 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 15分 (短縮版：10分) | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや約束事項を確認する。 ・ゲームを通して場を和らげるとともに1グループ6名以内のグループをつくる（短縮版はカットし、名簿によるグループ分けで対応する。）。 ・自己紹介では、「子育てをされていて最近おもしろかったこと」について話をするににし、たがいに親近感がもてるようにする。 | |
| 展 開 15分 | ワーク1 ・エピソードを読む。 (全体) ・ロールプレイをする。 (グループ) ・感想を話し合う。 (グループ) | <ul style="list-style-type: none"> ◎ロールプレイを通して、自分の関わり方を振り返るとともに、親として留意すべきポイントについて考えることをねらいとする。 ・親役2人と息子役1人の3人組でロールプレイを行い、グループ内で互いに見合えるようにする。その際、次の活動への布石として担当する役に関わらず息子の気持ちを踏まえようとして、自分なら親としてどのような関わり方をするかを考えながら活動するよう伝える。 ・感想を話し合う時は、「子どもとどのように向き合うべきか」をテーマに活動を振り返り、話す内容や態度等、親として留意すべきポイントを確認することができるようにする。 | |
| 10分 | ワーク2 ・エピソードと似たような経験について紹介し合う。(グループ) | <ul style="list-style-type: none"> ◎様々な事例にふれながら、規範意識を育てるための親としての関わり方について自分の考え方を再認識したり、新たな気持ちを得られたりすることをねらいとする。 ・子どものエピソードでも、参加者自身の子どもの頃のエピソードでもよいことを伝える。 ・必要に応じて質疑応答や感想を話し合う時間を設定する。 | |
| 20分 | ワーク3 ・ワークシートに書き込む。(個人) ・紹介し合う。(グループ) ・まとめをする。(全体) | <ul style="list-style-type: none"> ◎約束やルールを尊重し、順守することができる子どもを育てるための取組を紹介し合うことを通して、今後の自身の取組に向けた一助となることをねらいとする。 ・まとめの段階では、グループの代表に発表してもらい全体で情報交換することができるようにする。また、ファシリテーターは、最後に資料を参照にしてまとめをする。 | 参考資料(P.69) |
| まとめ 10分 (短縮版:5分) | ふりかえり ・ワークシートに書き込む。(個人) | <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の実態を踏まえながら、子どもの規範意識の育成をめざした具体的な取組を考えることで実践しようとする意欲につなげる。 ・時間があれば資料2を参照し、その後、書き込むようにする。 ・書き込み後、時間があればグループ内で紹介し合う。ファシリテーターは、発表内容に関連したコメントをし、まとめとする。 | |

Ⅱ-4

ふりかえろう・子どもとの接し方

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：50分程度

| ねらい | 子どもとの接し方を振り返ることにより、子どもの人権について考える。 | | |
|-------------------|--|--|----------|
| 実施のポイント (評価など) | <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの気持ちになるように役割演技をし、自分の言動を振り返ることができる。 ○他の人が考えている「理由」をたくさん聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることができる。 | | |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> ○3人(又は4人)組になれる席の配置をする(全員が立てるだけのスペースを空けておく) ○資料 ○筆記用具 | | |
| 時間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導入 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク | <ul style="list-style-type: none"> ・仲よし同士が一緒にならないようにアイスブレイクを行い、3～4人のグループをつくる。 | |
| 展開 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク1 ・エピソード(1)を読む。 ・役割演技をする。 ・感じたことを書く。 ・グループで話し合う。 ・何人が発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎日頃の親の言動で、子どもを傷つけてしまうことがあることに気付くことをねらいとする。 (1グループに5人以上の場合は、観察役の人数を増やす) ※役割演技は、その場の雰囲気によって内容を自由にしてよい。 ・それぞれの役の立場で感想を書き、話し合うよう伝える。 ・最後に、「子どもを、…だからと決めつけていることはないか。」ということを問いかける。 | |
| 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード(2)を読む。 ・○○の気持ちを考え、シートに書く。 ・考えた言葉を紹介し、話し合う。 ・何人が発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループで○○の気持ちについて話し合う。 ・「○○○をほめていただけなのに、○○がとてもつらい」「友達ばかりをほめることも同じ」「片方をほめることは、もう一方は比べられていると感じている」ことをみんなで確かめ、最後にねらいを共有する。 | |
| 20分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク2 ・自分の思いをシートに○を付ける。 ・ジレンマ・ゲームをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎地の人の意見を聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることをねらいとする。 ・意見が割れている項目をいくつか選んで、ジレンマ・ゲームを行う。 ・時間がある場合は、すべての項目を行う。 | 資料(P.70) |
| まとめ 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ふりかえり ・資料の説明を聞く。 ・全体に関する感想を出し合う。 ・ふりかえりを書く。 ・何人が発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権に関わるものがたくさんあることに気付いてもらうよう説明する。 ・ふりかえりでは、今後取り組もうとすることを書き、何人かに発表してもらうことにより、考えを共有し、実際の行動へと促すようにする。 ・最後に、「家庭が、子どもの人権感覚をはぐくむ大切な場である」ことを伝える。 | |

※実施時間の関係から、ワーク1のみ又はワーク2のみの実施も可能である。

| ねらい | 子どもをめぐる様々なトラブルに適切に対応することができるよう、その対処法を考え合うとともに、日頃から、保護者・先生・地域住民とのつながりを深めておくことの重要性に気付く。 | | |
|-------------------|--|---|---------------|
| 実施のポイント (評価など) | <ul style="list-style-type: none"> ○トラブルに対応する不安感を軽減することができる。 ○トラブルの対処法の幅を広げることができる。 ○周囲の協力を得ながら対処したほうが良いと思うことができる。 | | |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ6人程度のグループに分かれておく ○役割分担をする（進行・記録・発表） ○助言者をお願いできる場合は、事前に打ち合わせをしておく <p style="text-align: right;">○筆記用具</p> | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 5分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、保護者の子どもの名前、気がかりなことなどについて話をする中で、悩みを共有しようとする雰囲気づくりをする。 ・特定の参加者が批判されないよう留意する。 | |
| 展 開 15分 | ワーク1 ・エピソードを読む。 ・ロールプレイを行う。 ・2人の気持ちを考える。 (個人で記入し、その後グループで協議) | <ul style="list-style-type: none"> ◎登場人物の心情を想像することで、子どもの立場に立った接し方についてみんなで考えることをねらいとする。 ・龍馬役、保護者役を決め、ロールプレイを行う。(2名) 他の4名は、保護者の声かけの仕方と効果を観察する。 ・子ども役は、どう聞かれると話しやすいかの感想を述べ、つらい思いをしている子どもに、どう対応するのが効果的かを考える。(保護者の接し方) ・わが子を大切に思うと同時に、どうすればいいかとまどってしまう保護者の気持ちにふれる。 | |
| 15分 | ワーク2 ○各自での作業 ・解決方法を選択する。 ・後の展開を想像する。 ・後日、話を聞かされた弥太郎の保護者の対応について考える。 ○グループ協議 ・各自の作業で記入したことを発表する。 ・意見交換 | <ul style="list-style-type: none"> ◎事例への対処法を考えることで、トラブルへの対処法について幅を広げることをねらいとする。 ・方法は複数選択可とし、その場合は、順番も考える。 ・両方の保護者の気持ちを想像しながら、対応を考えられるようにする。 ・どの解決方法にも、長所・短所があることに気付く。 ・人間関係の親密度により、効果が異なることに気付く。 ・加害者の立場となったときの対応法について話し合う。 | |
| 15分 | ワーク3 ○グループ協議 ・想定事例について、ワーク2をもとに、対処方法を考える。 ・日頃から、必要なことについて話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎他の場合の対処方法や日頃から必要なことについて考えることで、周囲の協力を得ながら対処する必要性について気付くことをねらいとする。 ・参加者の状況に配慮しながら、ファシリテーターが、取り扱う想定事例を選択しておく。 ・ワーク2の対処法を選択したり、組み合わせたりしながら、事例の特性に応じた対応方法を考える。 ・周囲の支援が効果的であることと、保護者・先生・地域との日常のつながりが重要であることを確認する。 | |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・各自の思いを記入する。 ・発表し合い、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を紹介し、みんな悩みを抱えていること、地域とのつながりがある人は不安が少ないことを伝える。 ・子育てにトラブルはつきもので、心配せず自信を持って、いざとなったら一人で悩まず、周囲に援助を求めることが大切であることを伝える。 | 資料(P.71～P.72) |

| | | | |
|-------------------|---|---|-----------------------------------|
| ねらい | <p>子どもたちは体験を通して、驚きや感動、自然を大切にする心や忍耐など多くのことを学ぶ。しかし、時代の急激な変化とともに、私たちの生活環境が大きく変わってきた今日、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ様々な生活体験、自然体験の機会も大変少なくなっている。</p> <p>そこで、保護者自身が「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことの大切さに改めて気づき、日常生活の中で様々な体験を子どもと一緒にするためのきっかけとする。</p> | | |
| 実施のポイント (評価など) | <p>○子どもにとって、様々な体験を通して学ぶことが大切であることに気付くことができる。</p> <p>○子どもと一緒にできる体験、子どもにさせたい体験を見つけることができる。</p> | | |
| 事前準備 | <p>○マーカー ○ワークシート ○筆記用具 ○模造紙 ○付箋紙</p> <p>○会場設営（1グループ4～6名程度の机といす）</p> <p>○名簿によるグループ分け（意図を持たせたいときはこれに限らない）</p> <p>○テキストの印刷（A4版2枚に分けて印刷）</p> | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導入 20分 | <p>ワークの趣旨説明</p> <p>○アイスブレイク「3つのコーナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の隅に [YES][NO][?] と書いた紙を張っておく。 ・ファシリテーターが「生活体験」「自然体験」にかかわる質問をし、当てはまると思えば [YES]、思わなければ [NO]、どちらとも言えない場合は [?] のいずれかに、参加者に移動してもらおう。 ・ファシリテーターは、質問ごとにそれぞれのコーナーに分かれた参加者に、なぜそう思うのか書きながら進行する。(各コーナー3名程度、インタビュー形式) <p>○グループ分け・自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前、子どもの性別・学年・アイスブレイクの感想などから、一人30秒程度で行う。 | <p>〈質問の例〉</p> <p>Q1 子どもには、進んでお手伝いをさせている。</p> <p>YES→どんなお手伝いをさせていますか？ 進んでお手伝いをさせる理由はありますか？</p> <p>NO→進んでお手伝いをさせたいことに、理由はありますか？ させたいお手伝いはありませんか？</p> <p>? →YESにもNOにも行かなかった理由は？</p> <p>Q2 休日は、子どもと一緒に過ごすことが多い。</p> <p>YES→どんな事をして過ごしていますか？</p> <p>NO→一緒に過ごすことが難しいのには、理由がありますか？</p> <p>? →YESにもNOにも行かなかった理由は？</p> | <p>[YES][NO][?]</p> <p>と書いた紙</p> |
| 展開 15分 | <p>ワーク1「吹き出し」に書き込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、各自が思いつくことばを吹き出しに書いてもらう。 ・書いたことを、グループで発表し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう書いたのか、写真のどこからその言葉が浮かんだのか説明しながら話し合う。 | <p>ワークシート 筆記用具</p> |
| 10分 | <p>ワーク2 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、どのように変わっていくと思うか話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して子どもたちが変わることを、得られること等をグループ内で自由に話し合う。 ・意見が出にくい場合は、ワーク1で考えた子どもと同じような言葉や、写真の表情などから考えてみるよう促す。 | |
| 25分 | <p>ワーク3「体験から得るもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの説明をする。 ・各自が、付箋に体験から得られるものを3つ書く。 ・各自の意見をもとにグループで話し合い、分類する(KJ法)。 ・分類したの中から、大切だと思うものを3つ選び、ベスト3を決める。 ・それぞれのグループベスト3を掲示し、なぜそう思うのか発表してもらう。 ・必要に応じて、各グループの意見を比較し、共通のものや気になる意見などを発表してもらい、全体で協議する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や自然体験について説明をするとともに、体験がある子どもほど、道徳観や正義感もあるということを説明する。 ・ワーク2の話し合いや、データを基に考えるよう促す。 ・各自が書いた付箋をグループの中央に出し合い、共通の意見はまとめ、分類する。 ・分類した意見に、見出しやタイトルをつける。 ・特に順序づけはしなくてよいことを伝える。 ・黒板などに一覧表を作り、各グループのベスト3を記入してもらう。 ・グループ数が少ない場合は、模造紙に記入したものを、そのまま掲示してもよい。 | <p>付箋紙</p> <p>模造紙</p> <p>マーカー</p> |
| まとめ 20分 | <p>ワーク4 「体験」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒にできる「体験」や、させたい「体験」を思いつくままに書く。 ・グループ内で発表しながら、子どもと一緒にできる、子どもにさせたい「体験」を選ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別なことではなく、お手伝いや遊びを含めた生活体験、自然体験でよいことを伝える。 ・「体験」を子どもに押しつけるのではなく、一緒に考え、一緒に体験するという視点が大切なことを伝え、家庭で子どもと一緒に考えるように伝えてまとめとする。 | |

| ねらい | 自分の思春期や子育てを振り返り、保護者同士で思春期の子どもについて話し合うことにより、子どもとのより良い関係づくりについて考える。 | | |
|-------------------|--|--|------------|
| 実施のポイント (評価など) | <ul style="list-style-type: none"> ○思春期の子どもに対する理解を深めることができる。 ○グループ協議を通して、自分の子育てを客観的に振り返ることができる。 | | |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート（できればワークごとに1枚ずつ配布できるようにしておくとうい。） ○参考資料（まとめの部分で配布する。） ○名札 ○筆記用具 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介 ・グループづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムのリード文をもとに、趣旨を確認する。 ・参加者の緊張をほぐし、自由に意見が出やすい雰囲気づくりを行う。 (自己紹介も含む。) ・5～6人のグループをつくる。 | 名札 |
| 展 開 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク1 ・各項目に記入後、自分の思春期の頃と同じだと思うことや親との関わりについて記入する。 ・グループで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎自分は、どのように親と関わってきたか、どのように親のことを思っていたかを振り返ることをねらいとする。 | (ワーク1のシート) |
| 20分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク2 ・わが子の変化について、記入する。 ・子どもの変化について、話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎思春期の子どもの変化についてグループで話し合うことで、子どもに対する理解を深めることをねらいとする。 ・4つの項目について、具体的に記入する。 ・マイナス面ばかりでなく、プラス面も書くことを説明する。 ・この場で話し合ったことは、他言しないことを約束する。 | (ワーク2のシート) |
| 30分 | <ul style="list-style-type: none"> ワーク3 ・ワーク2をもとに、変化した子どもにどのように接すればよいか記入し、グループで話し合う。 ・グループで話し合ったことを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎思春期の子どもとのより良い関係づくりについて考えることをねらいとする。 ・ワーク2で話し合ったことをもとに記入する。 ・考えが違っても、受容的・共感的な姿勢を持ち、互いの意見を尊重するように約束する。 ・ワーク2の子どもの変化も踏まえて、話し合ったことを発表し、接し方について全体で共有する。 | (ワーク3のシート) |
| まとめ 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ふりかえり ・ワークシートに記入する。 ・発表し合い、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料1、資料2について説明する。 ・全体で出された考えをまとめ、話し合ったことを、自分の子育てにぜひ生かしてほしいことを伝える。 | |

| ねらい | 子どもの「ケータイ・スマホ」社会で何が起きているのかを知る。 「ケータイ・スマホ」を子どもにもたせるときは、親が何をすべきかを考える。 | | |
|-------------------|--|---|-----------------------------|
| 実施のポイント (評価など) | ○資料を通じて子どもの「ケータイ・スマホ」事情を知り、その対応策を話し合うことができる。 ○子どもが「ケータイ・スマホ」を所持する場合に親としてすべきことを考えることができる。 | | |
| 事前準備 | ○資料（資料1：新聞記事 資料2：フィルタリングサービス） ○ファシリテーター用資料を準備する ○数人のグループで話し合えるよう、グループづくり、会場設定をしておく ○筆記用具 | | |
| 時間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導入 10分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・グループ分け ・自己紹介 | ・学習のねらいや約束事項を確認する。 ・ゲームを通して、場を和らげるとともに、1グループ6名以内のグループをつくる。 ・自己紹介では、「子育てをしていて最近おもしろかったこと」について話をすることにし、たがいに親近感がもてるようにする。 | |
| 展開 15分 | ワーク1 ・グループで話し合う。 ・新聞記事を読む。 (進行者が読む、または黙読) ・記事から利用実態をピックアップする。 ・危険な現状を知る。 | ◎子どもの「ケータイ・スマホ」利用をめぐる危険な現状・実態について知り、対応の必要性に気付くことをねらいとする。 ・実際に起きている犯罪・被害はどのようなものか話し合う。さらに、新聞記事をもとに話し合う。 (例) * 出会い系サイト以外のサイトで子どもが犯罪に巻き込まれるケースが増加 * ゲームサイトやプロフ、ブログ、SNSでの危険 * ケータイによって世界が広がれば、リスクも増加 | 資料1(新聞記事) |
| | ワーク2 ・ケータイ・スマホの必要性について話し合う。 ・ケータイ・スマホを持たせる場合のルールを考え、話し合う。 ・資料からルールに沿った機能設定を知る。 | ◎トラブルや依存を防ぐために、親としてすべきことを考えることをねらいとする。 ・家庭でできること、しなければならないことについて話し合う。 (例) * 「ケータイ・スマホ」の必要性を子どもと話し合いながら考える。 (家庭環境、子どもの発達段階等) * 持たせるなら、家庭でのルールを子どもと話し合いながらつくる。 (「ケータイ・スマホ」の使用時間・場所、料金の上限、書き込み、インターネットやメールの利用、学校のルール・公共の場でのマナーやルール等を考える。) * 発達段階に応じたフィルタリング・アクセス制限を行う。 →ルールに沿って「ケータイ・スマホ」機能設定を行う。 技術的な知識、手段(フィルタリング・アクセス制限)等を資料から知る。 | 資料2(P.73~P.74) (各社サービス等) |
| 20分 | ワーク3 ・我が家のルールづくりをする。 | ◎家庭で実際にできることを出し合うことをねらいとする。 ・話し合ったことをもとに、我が家での場合を考えて3つ程度ルールづくりを行う。 ・グループで出したルールを発表し、参加者で共有する。 | |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。 | ・親子で話し合う、一緒にルールづくりをする等で大切な家庭教育における基本的な事項についてみんなで確認する。 * 子どもとの日々のコミュニケーションが大切であること * 挨拶をする、声をかける、気にかける、見守る等 * 子どもにコミュニケーション能力、マナーを身につけさせることの重要性を認識すること * 被害者や加害者をつくらないための家庭教育の重要性 ・時間に余裕があればトラブルに巻き込まれた場合の対応・相談窓口を紹介する。 | |

Ⅲ-3

異性との付き合い、男女の付き合い

対象：思春期の子どもをもつ保護者
時間：60分程度

| ねらい | 思春期は発達段階で異性や性への関心が高まる時期である。子どもの性や男女の付き合い方について、家庭でどう関わるのかについて考える。 | | |
|-------------------|--|---|----------|
| 実施のポイント (評価など) | 直面する性の問題に対し、適切な意思決定や行動選択ができる子どもを育てるために何が大切なのか、何をすべきかを考えることができる。 | | |
| 事前準備 | ○実施部屋の環境づくり ○あらかじめ4～5人のグループに分かれておく ○筆記用具 ○資料 ○名札 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 5分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク | ・自由に意見が出しやすい雰囲気づくりを行う。 (自己紹介も含む) | 名札 |
| 展 開 15分 | ワーク1 ・エピソードを読む。 ・グループで話し合う。 ・ワークシートに記入する。 | ◎思春期は発達段階で異性や性への関心が高まる時期であることを共有することをねらいとする。 ・エピソードだけでなく、自分の経験や日ごろ感じていることなどについても自由に意見を出せるようにする。 ・出された意見は尊重し、批判しないこと、他言しないことを確認する。 | |
| 30分 | ワーク2 ・個人でアドバイスを記入して発表する。 ・グループからのアドバイスを話し合い発表する。 | ◎アドバイスを考えることで、子どもの性や男女の付き合い方について、家庭での関わりの重要性に気付くことをねらいとする。 ・子どもの異性との付き合い方について、現在取り組んでいることやルールがある場合は紹介する。 | |
| | 資料 ・資料の説明を聞く。 | ・資料を説明し、現在の中高生の性交に関する見解について知らせ、親としての関わりが必要であることを伝える。 | 資料 |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・わが子へ伝えたいこと、そのために心がけたいことを記入する。 ・発表し合い、共有する。 | ・本日のワークが各家庭で子どもと異性との付き合い方について語り合うきっかけになることを伝える。 ・資料について説明し、青少年の性の現状について伝える。 | 資料(P.75) |

IV-1

子育ての不易流行を考える

対象：地域の大人
時間：60分程度

| | | | |
|-------------------|---|---|--------------|
| ねらい | 現代的課題をふまえながら、子育ての不易流行を考え、親世代の子育てを応援する必要性について考える。 | | |
| 実施のポイント (評価など) | ○子育てや親のあり方に関して、変わらない点や変わった点について考え、共有することができる。 (親の批判にならないように注意する。) ○親の努力だけでは解決できない、社会的状況を理解することができる。 | | |
| 事前準備 | ○資料 ○付箋紙 ○マーカー ○模造紙 ○記入用紙 ○筆記用具 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク | ・ パースデーチェーン(P.83)をして、4～5人のグループ分けをする。 | |
| 展 開 5分 | ワーク1 ・ エピソードを読む ・ グループで話し合う。 | ◎エピソードをもとに、日頃感じていることを出し合うことをねらいとする。 ・ プレインストーミングで自由に感じたことを出してもらおう。 ・ ファシリテーターは、感想が出ていないグループがないかチェックして、必要ならヒントを出す。 | 付箋紙 マーカー |
| 10分 | ワーク2 ・ 変わらないと感じることを付箋紙に記入する。 ・ グループで話し合い、発表する。 | ◎子育てや親について、変わらないことについて考え、共有することをねらいとする。 ・ 思いついたものを付箋紙に各自が記入して模造紙に貼りグルーピングする。 ・ グループで出た意見を、1分程度で発表し、共有する。 | 模造紙 タイマー |
| 10分 | ワーク3① ・ 変わったと感じることを付箋紙に記入する。 ・ グループで話し合い、発表する。 | ◎子育て環境や親の対応について、変わったことについて考え、共有することをねらいとする。 ・ 思いついたものを付箋紙に各自が記入して模造紙に貼りグルーピングする。 ・ グループで出た意見を、1分程度で発表し、共有する。 | |
| 15～20分 | ワーク3② ・ 資料を参考に背景について考える。 | ◎親の努力だけでは解決できない、社会的状況を理解し、親世代の子育てを応援する必要性に気付くことをねらいとする。 ・ 環境の変化について理解できるように、じっくりと資料を使って考えることができるように説明する。 | 資料(P.76) |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・ できることを記入する。 ・ 発表し合い、共有する。 | ・ 個々が今日からできることを紙に書いてもらい、グループで紹介して共有する。 | 記入用紙 マーカー |

IV-2

子どもたちにしてあげたいこと

対象：地域の大人
時間：60分～90分程度

| | | | |
|-------------------|--|--|------------------------|
| ねらい | 子どもの豊かな成長のために、地域の大人ができることを話し合い、子育て支援に取り組むきっかけとする。 | | |
| 実施のポイント (評価など) | 地域住民のほとんどは、子どもの様子が気になりながらも、実際に子育て支援に取り組む人は少数であることから、できることから始めてみようという地域の大人の意欲の高まりを引き出すことができる。 | | |
| 事前準備 | ○筆記用具 ○資料 ○付箋紙 ○マーカー ○模造紙 | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク | ・アイスブレイクの最後に3～4人のグループができるような活動を行う。 | |
| 展 開 10分 | ワーク1 ・子どもの頃の遊びを思い起こす。 ・グループで紹介する。 | ◎子どもの頃の遊びを思い起こすことをねらいとする。 ・グループ内で自分が1番好きだった遊びを発表する。 | |
| 15分 | ワーク2 ・エピソードを読む。 ・解決方法を考える。 ・グループで話し合う。 | ◎子どもたちの遊びの現状について気付き、大人にできることについて考えることをねらいとする。 ・グループ内で自分の考えを発表し、解決の方法を話し合う。 | |
| 20分 | ワーク3 ・子育て支援の方法について考え、付箋紙にアイデアを記入する。 ・グループで話し合い、まとまった意見を発表する。 | ◎地域の大人ができることを話し合うことで、子育て支援に取り組む意識を高めることをねらいとする。 ・ワーク2の解決法などを参考にしながら資料について説明を行い、グループでの話し合いに活用できるようにする。 ・模造紙に貼りながら、自分の地域でどんな取り組みができるか意見を出し合い、グループとしての取組をまとめ発表する。 *グループでの話し合いは、ランキングで時間を短縮することも可能。 | 資料(P.77) 付箋紙 模造紙 |
| まとめ 5分 | ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。 | ・学習についての感想を記入し、グループ内で発表する。 ・時間があれば様々な地域で行われている子育て支援の取組を紹介する。 | 実践事例 |

| ねらい | 子育て中の親への関わり方や相手が受け入れやすい支援のあり方について考える。 | | |
|-------------------|---|---|----------|
| 実施のポイント (評価など) | ○グループ内で十分に他の考えを聞くことができる。 ○支援をしていくうえで、子育て中の親の話をしっかり聞いて気持ちを受け止めること、親のがんばりを認めることも大切であることに気付くことができる。 | | |
| 事前準備 | ○名札 ○筆記用具 ○資料 ○あらかじめ4名程度のグループに分かれておく | | |
| 時 間 | 学習活動 | 学習活動のねらいとポイント | 準備物 |
| 導 入 10分 | ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク | ・自由に飾らずに意見を出し合うためのウォーミングアップをする。 | 名札 |
| 展 開 15分 | ワーク1 ・各自の思いを記入する。 ・グループ内で紹介し合う。 | ◎自分の思いを考えることやグループ内でそれぞれの考えを聞くことを通して、自分の受け止め方や考え方を振り返ることをねらいとする。 (ワーク2でも同様) ・自分に自信がもてない親の気持ちを聞いた時の受け答えを考える。 | |
| 20分 | ワーク2 ・各自の思いを記入する。 ・グループ内で紹介し合う。 | ◎子育て中の親の気持ちを受け止めること、親のがんばりを認めることが大切であることに気付くことをねらいとする。 ・子どものことを思って自分はがんばっているのに、うまくいかないと思っている親の対応についてどう思うか、また自分ならどのように答えるかを考える。 | |
| 5分 | 自己紹介 ・子育て意識に関する資料の説明を聞く。 ・気付いたことを発表し合う。 | ◎多くの親は子育てに不安をもっており、支援していく必要があることに気付くことをねらいとする。 | 資料(P.78) |
| まとめ 10分 | ふりかえり ・各自の思いを記入する。 ・各自の思いを紹介し、共有する。 | ・時間があれば、全体場で多くの人の感想を共有できるようにする。 ・参加者が学習に取り組んだこと自体が大変すばらしいことであることを伝える。 | |

※時間が取れない場合は、ワーク1、ワーク2のどちらかだけを行う。